

助成事業名		大学生による「科学の祭典」の出前出展ブース - 山口大学教育学部小学校総合選修において - (事業期間：2021 年 12 月 19 日及び 2022 年 10 月 1 日)	
	計 画	実 施 結 果	
事業内容	開催の予定日と「科学の祭典」の名称	開催日と「科学の祭典」の名称	
	2021 年 9 月 25 日に開催予定の「第 7 回 長門サイエンスフェスティバル」に参加	A：2021 年 12 月 19 日に山口大学教育学部で開催 B：2022 年 10 月 1 日に開催の「第 7 回 長門サイエンスフェスティバル」に参加	
	2021 年 9 月 26 日に開催予定の「青少年のための科学の祭典 第 20 回萩大会」に参加	対象 上記の科学の祭典への参加者（主に児童・生徒）	
	対象 上記の科学の祭典への参加者（主に児童・生徒）	参加者	
	定員 無し	A：児童 42 人とその保護者	
	内容 学生がブースを企画・運営し、4 つのブースを出展する。	B：児童・生徒 598 人（アンケートに回答した人数） 内容 学生がワークショップやブースを企画・運営し、ワークショップを行ったり、ブースを出展したりする。	

事業結果報告

事業の目的・ねらい

本事業の当初の目的・ねらいは、2021 年度の「第7回長門サイエンスフェスティバル」、「青少年のための科学の祭典 第20回萩大会」に教育学部の学生が複数のブースを企画、準備、参加することにより、科学の魅力やおもしろさを、学生、子供達参加者共に体験することであった。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響があり、上記の2つの「科学の祭典」は未開催となった。

そこで、本事業の目的・ねらいは変更せず、下記のAの「科学の祭典」を開催し、また、Bの「科学の祭典」に参加して実施した。

A：2021年12月19日に山口大学教育学部小学校総合選修が主催で「科学の祭典」を開催（場所：山口大学教育学部、実験演示形式：ワークショップ）

B：2022年10月1日に開催の「第7回 長門サイエンスフェスティバル」に参加（場所：ルネッサながと、実験演示形式：ブース）

事業の概要

前述したように、Aの「科学の祭典」を開催し、また、Bの「科学の祭典」に参加して実施した。

まず、Aの「科学の祭典」について事業の概要を示す。Aの「科学の祭典」では、3つのコース（Aコース、Bコース、Cコース）をつくり、児童（保護者を含む）を対象に活動を行った。参加者（児童と保護者）を募集するにあたっては、小学校にチラシを配布して公募した。そのチラシには、各コースの内容、開催日時や受付場所（山口大学教育学部の玄関）、申し込み方法等を掲載した。参加希望者は、上記のいずれかのコースを1つ選択し、チラシに掲載しているQRコードをスマートフォン等で読み取り、Web上のフォームから申し込みを行っている。各コースに参加できる人数には定員（Aコース：16名、Bコース：20名、Cコース：6名）を設定し、参加者は先着順によって決定した。ワークショップの名称を表1に示す。

表1 ワークショップの名称と活動時間

コース	班	ワークショップの名称	活動時間
A	1	目指せ ロボット操縦士	45 分
	2	オリジナルスライム研究所	45 分
B	3	「もこもこ絵の具」で作ろう	45 分
	4	ぷくぷく！ボトル水族館	45 分
C	5	プログラミングで「ヒミツ道具」を作ろう	90 分

次に、Bの「科学の祭典」について事業の概要を示す。Bの「科学の祭典」は、長門サイエンスフェスティバル実行委員会が、長門市の公立小学校11校と公立中学校5校にQRコードを印刷したチラシを配布し、参加者を募集した。参加者は先着順で決定した。その結果、児童・生徒の参加者数は250名であった。ブースの数は21ブースであり、その中の8つのブースを山口大学教育学部小学校総合選修の学生が出展した。開催の時間は10：00～15：00（午前の部：10：00～12：00、午後の部：13：00～15：00）であった。学生が出展したブースの名称を表2に示す。

表2 ブースの名称

番号	ブースの名称
①	キミも科学者!! ふよふよを作ろう
②	PET ランチャー
③	おかしくれなきゃ ガタガタしちゃうぞっ!!
④	バス BOOOOMB!!
⑤	「世界に1つだけのハーバリウムを作ろう!!」
⑥	テンセグリティー～ストローが織り成す立体構造～
⑦	オリジナルストラップをつくろう!
⑧	カラフルキャンドル～自分だけのオリジナルキャンドルを作ろう～

成果・効果

まず、Aの「科学の祭典」について成果・効果を示す。

1. 各活動の終了時における学生の自己評価（「意欲」と「態度」）と学生の意識（「満足度」）を調査し、分析した結果、「意欲」と「態度」については、良好～概ね良好であり、また、「満足度」については、概ね良好であったことが分かった。
2. 「科学の祭典」に参加した児童の意識（「おもしろかった」と「きょうみをもった」）、また、保護者の意識（「良かった」）を調査し、分析した。その結果、児童の意識（「おもしろかった」と「きょうみをもった」）、また、保護者の意識（「良かった」）については、ともに良好であったことが分かった。さらに、児童の意識（「おもしろかった」と「きょうみをもった」）の要因のいくつかが明らかになった。
次に、Bの「科学の祭典」について成果・効果を示す。
3. 「科学の祭典」に出展するブースの準備（企画を含む）をする活動、また、「科学の祭典」の当日の活動に対する学生の自己評価（「意欲的に取り組むことができた。」「協力して取り組むことができた。」）と学生の意識（「おもしろかった。」「勉強になった。」）は良好であったことが分かった。
4. すべてのブースにおいて、参加した児童・生徒の意識（「おもしろかった」）が良好であったことが分かった。さらに、児童・生徒の意識（「おもしろかった」）の要因のいくつかが明らかになった。

付記

上記の内容の詳細については下記の論文に掲載しました。

Aの「科学の祭典」について

- 佐伯英人・西尾幸一郎（2022）「教育学部学生による『科学の祭典』に関する一考察－山口大学教育学部小学校総合選修において－」、『山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要』，第54号，pp. 85-94.

Bの「科学の祭典」について

- 佐伯英人・青山翔・岡村吉永（2023）「教育学部学生による『科学の祭典』に関する一考察（その2）－山口大学教育学部小学校総合選修において－」、『山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要』，第55号，pp. 1-10.

【Aの「科学の祭典」の写真】



表1の1班



表1の2班



表1の3班



表1の4班



表1の5班

Aの「科学の祭典」の写真は、佐伯・西尾（2022）より引用

【Bの「科学の祭典」の写真】



表2の①ブース



表2の②ブース



表2の③ブース



表2の④ブース



表2の⑤ブース



表2の⑥ブース



表2の⑦ブース



表2の⑧ブース

Bの「科学の祭典」の写真は、佐伯・青山・岡村（2023）より引用